



日本全国の文化財を地図で閲覧できる「文化財総覧WebGIS」の公開

2021年7月、文化財をインターネット上の地図で検索・閲覧できる「文化財総覧WebGIS」(以下、WebGIS)を公開しました。奈良文化財研究所は、1988年より不動産文化財データの全国センターシステムの一部として遺跡データベースを運用してきました。2003年からは遺跡の抄録データベース、2015年からは発掘調査報告書本文のPDFのデータベースである全国遺跡報告総覧を運用し、それぞれ膨大なデータを蓄積しています。このたび、これらの文化財情報とともに、国交省および文化庁による公開データ、自治体が公開しているオープンデータを一つに統合し、WebGISとして閲覧できるようにしました。データ件数は61万件あります。インターネット上で、簡単に地図から文化財の所在情報を調べ、本文PDFがあれば、刊行物もインターネットで閲覧できるページです。

これらのデータには、文化財の時代や種別(集落遺跡か古墳か等)を付与しているため、目的にあわせて検索することが可能です。例えば、弥生時代の集落遺跡で石包丁がみつかっている遺跡、といった条件で検索できます。

奈文研は、長年にわたって平城宮・京、藤原宮・京および飛鳥地域を発掘調査しています。都城その

ものの解明だけでなく、古代律令国家の建設過程の解明に重要な情報をもたらしてきました。その成果は、これまで現地説明会や刊行物で公開してきました。加えて、本簡をはじめとする遺物について、個別のデータベースを公開し、研究者だけでなく広く一般の方々の利用の便をはかってきました。しかし、発掘調査で得られた成果の全体像を把握するには、大部の発掘調査報告書を読み込むしかなく、それを理解することはなかなか難しいのが現状でした。今回、発掘地点や遺構の図面等も登録し、閲覧できるようにしました。

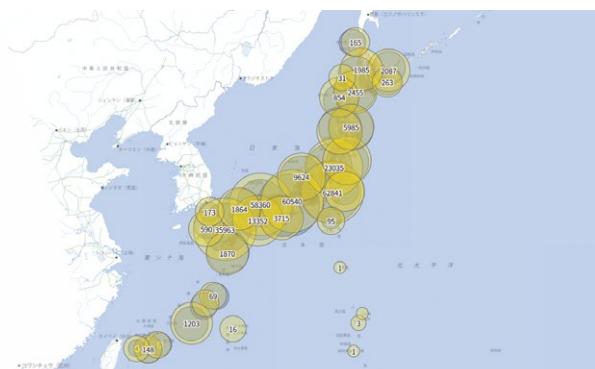
WebGISなので、基盤となる地図が必要です。本システムでは、19種類の地図を重ねて表示させることができます。国土地理院の標準地図・空中写真・活断層図等、産業技術総合研究所の地質図、奈文研の遺構図・地形図、兵庫県のCS立体図(高精度の地形情報)です。

自分の関心のある文化財を条件検索し、目的にあわせて地図を重ねることで、視覚的に結果を確認できます。これまで文章ではわかりづらかった文化財の立地状況を可視化できるようになりました。

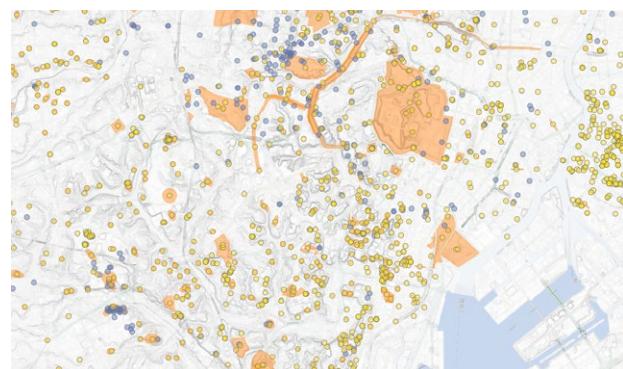
利用者の方々にはたいへん好評で、公開初日は1日で15,000のアクセスがありました。一度、「文化財総覧WebGIS」にアクセスいただき、調査成果をぜひご活用ください。

(企画調整部 高田 祐一)

文化財総覧WebGIS <https://heritagemap.nabunken.go.jp/>



文化財総覧WebGIS(日本全体)



東京 (東京都)周辺の文化財分布状況